

安全データシート

作成日 2021年3月15日

改訂日 2022年9月8日

1. 化学品及び会社情報

化学品 トリプロピレングリコール ブチルエーテル
(TRIPROPYLENE GLYCOL N-Butyl Ether)

供給者の会社名称 アーク株式会社

住所 大阪市北区西天満3丁目10-3

電話番 06-6809-5970

FAX 番 06-6809-5975

2. 危険有害性の要約

GHS 分類 JIS Z 7252、7253 : 2019 使用

物理化学的危険性 該当区分なし

健康に対する有害性 該当区分なし

環境に対する有害性 該当区分なし

GHS ラベル要素 ー

注意喚起語 ー

危険有害性情報

危険有害性

中度に目を刺激することがある。

角膜損傷を起こすことがある。

長期間接触すると、局所発赤を伴う皮膚刺激作用を起こすことがある。

環境影響

主成分について：物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない（試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50 > 100mg/L）。

物理的・科学的危険性

製品は高温時に酸化する可能性がある。

分解によるガスの発生が密閉システム内の圧力を上昇させる。

火災の際、ガスの発生により容器が破裂することがある。

3. 組成、成分情報

化学物質／混合物の区別： 化学物質

化学名 トリプロピレングリコール ブチルエーテル
TRIPROPYLENE GLYCOL N-Butyl Ether]

化学式 C₁₃H₂₈O₄

含有量 99.0%以上

CAS 番号 55934-93-5

化審法官報公示番号 (7)-97

4.応急処置

眼に入った場合 数分間眼を徹底的に水で洗い流す。

1～2分洗眼してからコンタクトレンズをはずし、さらに数分洗い続ける。

症状があれば、医師の診察を受ける。眼科医が望ましい。

皮膚に付着した場合 大量の水で皮膚を洗う

吸入した場合 直ちに新鮮な空気のある場所に移動させ、影響があれば医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合 誤飲して時は、医師の診察を受ける。

医師の指示がない限り、嘔吐させない。

医師に対する注意 特別な解毒剤はない。

暴露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床処置を行う。

5.火災時の措置

適切な消火剤 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素

直接棒状放水しない。火災を拡大させることがある。

消火手順 人々を避難させる。火を隔離して関係者以外の立ち入りを禁止する。

火が消えて再発火の危険がなくなるまで、水スプレーを用いて火に曝された容器および火災の影響を受けた領域を冷却する。

保護された場所から、あるいは十分に安全な距離から消火に当たる。

無人ホースホルダーまたはモニターノズルの使用を考慮する。

安全弁装置から聞こえる音が大きくなったり、容器の色が変色した時は、直ちにすべての人をその場所から避難させる。

直接棒状放水しない。火災を広げるかもしれない。

危険を伴わずにできるのであれば、容器を火災現場から移動させる。

人の保護や建物の損害を最小限にするために、燃焼する液体を水で流して移動させることもできる。水を溜めない。

本製品は水面上で移動し、火災を広げたり、着火源と触れることもある。

消防士用の特別な保護具 陽圧式自給式呼吸器 (SCBA) および防火服 (防災ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む) を着用する。

保護具が入手できないか使用できないときは、保護された場所から、または安全な距離をおいて消火活動を行う。

異常な火災および爆発の危険 火災の際、ガスの発生により容器が破裂することがある。

熱い液体に直接放水すると、激しい蒸気の発生や噴出が起こることもある。

危険な燃焼生成物 火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性の刺激性があるかも

しれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。

燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない。

- ・一酸化炭素
- ・二酸化炭素

6.漏出時の措置

物質が漏出した場合に取りべき手順

小規模漏洩 以下の物質で吸収させる

- ・砂
- ・バーミキュライト。

正しくはラベルの貼ってある適切な容器に回収する。

大規模漏洩 可能なら、流出物を囲い込む。

正しくラベルの貼ってある適切な容器にポンプで送る。

追加情報として、第 13 項、廃棄上の注意を参照。

人に対する注意事項 適切な保護具を用いること。

追加情報として、第 8 項、暴露防止及び保護措置を参照。

環境に対する注意事項 土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。

第 12 項、環境影響情報を参照。

7.取扱いおよび保管上の注意

取り扱い

一般的な取り扱い 眼との接触を避ける。取り扱った後は十分に手を洗うこと。

その他の注意事項

このような有機物質が熱い繊維断熱材上にこぼれると、自然発火温度の低下が起こり、自然発火に至る可能性がある。

保管 以下の材料でできた容器で保管する。

- ・炭素鋼
- ・ステンレス鋼
- ・フェノールライニング鋼

この中に保管してはいけない

- ・アルミニウム
- ・銅
- ・亜鉛めっき鉄

- ・亜鉛めっき鋼。

さらに詳細な情報は、第 10 項を参照

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 設定されていない。

ばく露防止

保護具

眼・顔面の保護 ケミカルゴーグルを使用する。

皮膚の保護 清潔で、長袖の、全身を覆う衣服を着用する。

手の保護

長時間または何度も繰り返し接触する可能性がある場合は、この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。

望ましい手袋の素材の例 ブチルゴム

エチルビニルアルコールラミネート (EVAL) 許容できる手袋の素材の例

天然ゴム(ラテックス) ネオプレン、ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリル
またはNBR)、ポリ塩化ビニル(PVCまたはビニル)

注意 特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、

以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある。取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件（切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護）、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

呼吸器の保護

許容濃度や管理濃度を超える可能性がある場合、呼吸器保護具を着用すること。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合は、呼吸器刺激や不快感がある、又は、リスク評価において必要であると示された時、呼吸器保護具を着用する。たいていの場合、呼吸用保護具は必要ない。ただし、不快感がある場合は、認可された空気清浄呼吸器（有機ガス用）を使用する。

経口 衛生状態を良好に保つ。作業場所での飲食や、食物の保管をしないこと。

喫煙や食事の前には手を洗う。

工学的管理

換気 局所排気装置や他の排気装置を使用して、気中濃度が許容濃度や管理濃度より低くなるように管理する。

許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、通常の作業は全体換気を行うことで十分である。

9.物理的及び化学的性質

物理状態

性状 液体

色 無色から黄色

臭気 データなし

引火点 126°C (セタ密閉式 ASTM D 3278)

爆発範囲 下限 データなし

上限 データなし

自然発火温度 202°C (at 1.013hPa)

蒸気圧 1.33hPa (at 99.7°C)

沸点 (101kPa) 274°C

蒸気密度 (空気=1) >6

比重 (H20=1) 0.930 (at25°C) (ASTM D 891)

凝固点 -75°C

水への溶解度 (重量ベース) 4.5% (at 25°C)

pH データなし

動的粘度 7.0mPa·s (at 25°C) (ASTM D 445)

10.安全性及び反応性

反応性 データなし

化学的安定性 推奨される保管条件下で安定している。第7項、保管を参照。

避けるべき条件 乾燥するまで蒸留しない。

製品は高温時に酸化する可能性がある。

分解によるガスの発生が密閉システム内の圧力を上昇させる。

混触危険物質 強酸類。強塩基類。強酸化剤類。

熱分解 分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。

分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない。

(アルデヒド類、ケトン、有機酸)

11.有害性情報

急性毒性

経口 LD50 ラット >2,600mg/kg (OECD 試験ガイドライン 401)

経皮 LD50 ラット >2,000mg/kg (OECD 試験ガイドライン 402)

皮膚腐食性/刺激性

皮膚 ウサギ 皮膚刺激なし (OECD 試験ガイドライン 404)

眼に対する重篤な 5) 損傷性/眼刺激性

眼 ウサギ 眼への刺激なし (OECD 試験ガイドライン 405)

皮膚接触 長期間接触すると、局所発赤を伴う軽度の皮膚刺激作用を起こすことがある。

皮膚呼吸 長時間の皮膚接触で、有害量を吸収することはないであろう。

LD50,ラット >2,000mg/kg

発がん性 データなし

生殖毒性 データなし

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) データなし

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) データなし

誤えん有害性 データなし

12.環境影響情報

生態毒性

魚 半静止試験 LC50 グッピー 564mg/l 96h (OECD 試験ガイドライン 203)

ミジンコ 止水式試験 EC50 オオミジンコ >100mg/l 48h

(OECD 試験ガイドライン 202)

残留性・分解性

生分解性 好気性 ばく露時間 10d 結果 72% 易分解性

(OECD 試験ガイドライン 301F)

生体蓄積性 データなし

土壌中の移動性 データなし

13.廃棄上の注意

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び地方条令に定められた方法に従って、焼却等の処理を行う。委託する場合は、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

廃容器は内容物を十分除去した後に、法規に従い廃棄する。

14.輸送上の注意

国連番号 非該当

国連分類 非該当

海洋汚染物質 非該当

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件をすべてお知らせするものではありません。

追加情報は、弊社の営業担当者またはカスタマーサービスより入手してください。

この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規則に

従ってください。

15.適用法令

消防法 第四類：引火性液体、第三石油類、危険等級Ⅲ、水溶性液体

毒物及び劇物取締法 非該当

労働安全衛生法

特定化学物質予防規則 非該当

有機溶剤中毒予防規則 非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物 非該当

名称等を表示すべき危険物及び有害物 非該当

化学物質排出把握管理促進法 非該当

16.その他の情報

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。

全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。

ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。

また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途，用法に適した安全対策を実施の上で
ご使用下さい。